

エステル、イラン、そして終わりの時

2009年3月8日 アシェル・イントレーター

I. 歴史的事実

エステル書は3つの段階で読むことができます。最初の段階は**歴史的事実**です。この出来事は事実であり、イエシュア(イエス)の時代よりも約500年前に起こったことです。

エステル書は聖書の中で唯一神の御名が直接述べられていない書です。しかし、神の主権が恐らくどの書よりも多く現わされています。

例えば、ハマンがモルデガイを殺そうと計画している同じ夜、アハシュエロス王は眠れずにいて、たまたまモルデカイが王をどのように救ったのかを読んでいたので、王がモルデカイに栄誉を与えようと決めた時、ハマンはたまたま庭にいたので、たとえ主が働いておられることを私たちに見えなくても、状況が悪いように見える時でも、神はすべてを支配しておられます。

モルデカイはキシユの子であり、つまり彼はサウル王の子孫であったことを表します。(エステル記 2:5)ハマンはアガグ人(エステル記 3:1)で、つまり彼はアガグ王の子孫である可能性があるのです。この時代より500年前、神は、サウルがアガグを処刑しなかったことで罰しました。(訳者:1サムエル記 15章参照)この罰は過剰に厳しいように見えました。もし私たちがハマンの大量殺戮の計画を見るならば、サウルにアガグを処刑せよという神のご命令は正しいことを理解できるのです。神の裁きは私たちに厳しいと思うのは、主をご覧になるものを私たちは見ないからです。私たちはなぜか分からなくとも、神の裁きは正しいのです。

神の主権には大変な恵みが含まれています。サウルがアガグに対して失敗しましたが、モルデガイはハマンに対して成功しました。神は二度目の機会をお与えになったのです。もし、私たちに信仰(そして忍耐)があるならば、たとえそれが、私たちが考える以上に時間がかかるものであったとしても、私たちのために主がすべてを良いものとして下さるのです。

II. 福音の予告

エステル書の第二の段階は**福音の予告**です。ハマンはサタンを現すもので、モルデガイはイエシュアです。聖書には、世界が創造される前から十字架は計画されていたと書かれています。(黙示録 13:8、1ペテロ 1:20)つまり、律法と預言書(訳注:旧約聖書全体のこと)にあるすべての出来事は十字架を予告するものとして神によって調整されたのです。(ルカ 24:26-27、使徒 2:30-31、1ペテロ 1:10-11)

旧約聖書には「十字架」という言葉はありません。それゆえ使徒たちは時々十字架をヘブライ語で「エツ」と言いました。(使徒 5:30、10:39、13:29)「エツ」は木や木材、または木造構造を表します。エステル書で「エツ」は7個所の処刑の場面(エステル 2:23、5:14、6:4、7:9、8:7、9:13、9:25)で出てきて「木」(英語の聖書では“gallows”「絞首台」)と訳されています。

悪者はこの木の構造物にかけられて処刑されました。正義のヒーローはあわやそこにかけられるところでした。そしてこの同じ木の構造物は突然敗北から勝利へと、すべて入れ替えてしまいました。モリヤ山でのイサクのように、穴に入れられたヨセフのように、魚のお腹の中にいるヨナのように、モルデカイは殺されかけ、奇跡的に救われました。モルデカイは王国で第二の権力者となり、彼の冠は他の冠を凌ぐものとなったのです。

III. 終わりの時の預言

エステル書の3つ目の段階は**終わりの時の預言**を予示するものです。ハマンは反キリストを、エステルは執り成す教会、モルデカイはメシアニック・ジュー運動を象徴します。

この歴史的な出来事は古代ペルシャ、現代のイランと同じ地域で起こりました。そこで悪人が、現代のアフマディネジャドのようにユダヤ人を破滅させようと呼びかけました。ペルシャには127の州があり、それは国連を連想するものです。

聖書のヘブライ語で「反キリスト」に最も近い言葉は「ツォレル」です。ハマンは「ツォラル」と4回述べられています。(エステル 3:10、8:1、9:10、9:24)ハマンのように、反キリストはユダヤ人(そしてクリスチャンも)殺そうとし、国々をまとめてイスラエルに攻撃をしかけます。(黙示録 13章、エゼキエル 38~39章、ゼカリヤ 12~14章)

反ユダヤ主義の根は**エステル 3:6**に見つけることができ、サタンの人物がメシア的な人物に対して激高し、ただメシアを殺すだけでは飽きたらず、主のすべての親類縁者に復讐を求めたのです。反ユダヤ主義と反キリスト、そして反クリスチャンの霊は同じ源から来るのです。

IV. 執り成す花嫁

エステルは現代の「キリストの花嫁」(エペソ 5:23-32、黙示録 12章)の美しい型です。彼女は王の花嫁としての親密な関係を享受しています。彼女にはユダヤルーツがありますが、誰も知りません。彼女はそれを避けようとしたが、ユダヤ人に関して恐ろしい艱難に巻き込まれてしまったのです。彼女は、彼女自身に対する神のご計画と花嫁としての親密な特権は、第一にイスラエルを救うために執り成しをする目的であるという預言的な課題に直面したのです。(エステル 4:14、ローマ 11:11-15)

彼女は命の危険を冒してユダヤ人のために執り成しをするという召命によってショックを受けますが、彼女は彼女に対する預言的な神のご計画を受け入れます。それは彼女の美、品位、祈り、そして断食によって破滅は勝利へと変えられ、王国は聖徒たちへ渡されました。(キリストとの花嫁としての親密さは終わりの時のエステルたちと現在呼ばれていることを多くの人は理解しています。)

このドラマの間、「この国の民のうちで、自分がユダヤ人であることを宣言する者が大勢いた。」(エステル 8:17)これは2つのことを指しています。1) 艱難の間福音により多くの魂が収穫される、2) 多くの聖徒たちがイスラエルの契約と信仰のユダヤルーツに再度つながることです。

V. イランへの神のご計画

エステル書はまたイランに対する積極的な神の預言的な計画を指しています。ペルシャは紛争と反ユダヤ主義の源ではありますが、そこはまた勝利をもたらす信仰の源でもあるのです。終わりの時にイランの地下教会が数を増し、信仰に立ち、そしてイスラエルの残りの人々と立場を共にすると私は信じています。

ペルシャの偉大な王たち、クロスとアハシュエロスがイスラムの 1000 年前にイスラエル人と契約を交わしました。ペルシャ人はアラブ人ではありません。彼らのルーツは聖書的な信仰であり、イスラムではありません。イスラエルとペルシャの関係は 2500 年前までさかのぼります。

祈りの弾丸: ネタニヤフ次期首相は国防長官という重要な地位にエフド・バラク氏を望んでいます。バラク氏の党では連立政権に加わることに反対している人が大勢います。ネタニヤフ氏の希望と神のご意思に基づいて、信仰によって祈りましょう。